

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

7月12日
第2聖日
第3412号

「神の永遠の御計画」

聖
言

私たちの主キリスト・イエスにおいて実現された神の永遠のご計画に沿ったことです。エペソ3:11

礼拝の恵み 第二一章
第八部 礼拝の障害（つづき）
第五節 あせり
彼は神を出し抜いて、自分にはささげる資格がないものを神にささげ、そのため当然、神の不興をこころむった。どの信者も、霊の力によらなければできない事を、肉の力で成し遂げようとする危険のなかにいる。聖ならざる、肉の性急から、不用意に神のみまえに出て、勝手な礼拝をささげる事は、神の言葉に照らして是正し裁定しなければならぬ。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」（詩四六ノ一〇）という神の命令に注意しなければならぬ。ダビデのように「わが魂はもだして神をまつ。わが望みは神から来るからである」（詩六二ノ五）と自分に言い聞かせなければならぬ。

（「礼拝」ギブス）

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年七月五日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「神の豊かな知恵」

「これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって、」（エペソ三ノ一〇）

人生とは縦糸と横糸で紡ぎ合わす着物のようなものです。ゆえに人生に無意味はありません。確かに一本一本の糸は弱いものである。出エジプト二六ノ一「幕屋を十枚の幕で造らなければならぬ。すなわち、撚り糸で織った亜麻布、青色、紫色、緋色の撚り糸で作り、巧みな細工でそれにケリビムを織り出さなければならぬ」。幕屋はイスラエルの民の中心に造られました。彼らは幕屋を毎日見て生活しました。その内部は多彩な色の糸で紡がれたケリビムが刺繍された織物が幕屋の内部を飾るのです。その中心に契約の箱が収められているのです。わたしたちの織りなす人生という織物の真中に神様がおられます。

第二の神の豊かな多彩な知恵とはヤコブの年寄り子であるヨセフに与えられた長服です。これは父親の全財産を受け継ぐ権利です。それは何ですか。あなたがたにまして天の父はあなたがたに最もよきもの聖霊をあたえられることです。「してみると、あなたがたは、悪い者であっても、自分の子どもにはよい物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありますでしょう。」（ルカ一ノ一二）。

第三の神の豊かな多彩な知恵は教会の多彩な働きが、周囲の注目するところになるのです。感動するもの、きれいなものに関心を払う。私たち一人一人の人生という織物が紡ぎあわされる過程を世の人々が注目しているのです。あの人とは人の悪口を言わない。だれとでも挨拶して、寄り添って慰めている。だれにでも裏表無く接しておられる。どこに聖書を学ぶ時間があ

ると思われるほど忙しいのに聖書をよく知っておられる。このように私たちが聖霊のバプテスマに授けられ、満たされ、愛と賛美と霊の歌に満ち溢れて多彩な賜物と働きをみて時周囲の人々は、何が起こったのかと関心を払うのである。これが神の豊かな知恵です

二〇一五年七月八日午後七時 祈祷会 山本牧師

「主の御手で覆われる」

「私たちが捕囚となつて二十五年目の年の初め、その月の十日、町が占領されてから十四年目のちようどその日、主の御手が私の上であり、私をそこへ連れて行つた。」（エゼキエル四〇ノ一）戦後七十年である。そのとき生まれた私たちの年代は、子、孫の時代になる。孫になると戦争など全然知らない。バビロンで安定しているなら、苦勞してイスラエルに帰る必要を覚えない。そのような人に対して回復の預言を語るのは困難である。エゼキエルは 四〇 章で幻を見せて彼らを奮起させた。第一に測量士を見せた。測量は建築の第一段階に行く。これを正確にしないと、家を建ててから、寸法が間違っていたなら取り返しがつかない。

それとともに測量は建築が始まるしるしでもある。どんな建物を建てるか。エルサレムが崩壊してから 14 年後ですから後 39 年もある。しかし、時の過ぎるのは瞬く間である。エルサレムを知らない子孫たちに、神様の約束を知らせるのは重要である。新しいエルサレムの幻である。ソロモンの建てた神殿は破壊される。」

エゼキエルの幻は主の教会によって、成就し、千年王国により、ユダヤ人もクリスチャンも一つとなり、三位一体の神を崇めて、イエスは主であると告白する。

一服ティー構想

七十年になろうとする先人の遺産である教会を活用します。地域の方々に活用していただきます。

現在地域で行われているデューサービスのような集いです。

教会三階座敷で昼の合間にティーを飲みながら、雑談や音楽を楽しみます。

分かりやすい福音の話をします。

教会に馴染んでいただき、信仰に興味を持っていただきます。

教会員もボランティアとして参加します。

茶菓代として二百円を徴収します。